



祖父は、バングラデシュの子どもたちと寄付活動を通して交流する双葉小学校を取材しました。

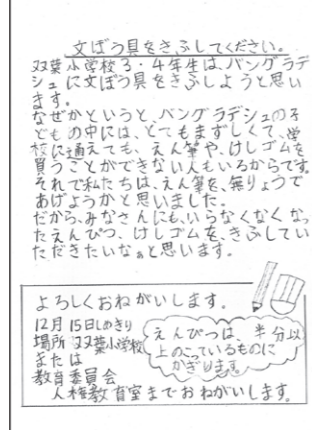
双葉小学校の子どもたちによる寄付活動

双葉小学校3・4年生のみなさんが寄付活動を始めたきっかけは、クラスの友だちが「にしわきジュニアじんけん教室」へ参加し、OneDropさんの活動を知ったことでした。バングラデシュには、満足に教育を受けることができない同世代の子どもたちがたくさんいると知り、他人事ではない気がしました。自分たちが力になれることはないかクラスのみなさんと話し合い、バングラデシュに文房具を届ける活動を計画しました。そして、学校や地域の人たちに呼びかけることにしました。

しかし、当初は思った数の数は集まらず、寄付を募る難しさを感じました。担任の先生に相談したところ、運動会の前日に防災無線で呼びかけたり、チラシを配布したりしたらどうかとのアドバイスをもらいました。なぜバングラデシュの子どもたちのために寄付活動が必要なのかをわかってもらうことが大切なのだ気づきました。運動会の当日には、多くの文房具が集まりました。その後も、市内の量販店でのポスター掲載や市の人権教育研究大会の開催前にチラシを配布し呼びかけを行うなどの活動を続け、2か月間で約2,000点が集まりました。



人権教育研究大会での呼びかけ



双葉小学校の児童が作成したチラシ



にしわきジュニアじんけん教室(きっかけとなった活動)

子どもたちの声

Aさん

最初に始めたときは、なかなか集まらなくてあきらめそうになったけど、先生や地域の方たちの協力を受けたくさん集めることができてとてもうれしかったし、この活動をやってほんとうによかった。

Bさん

同年代の子どもたちが国がちがうだけで勉強できないのはとても悲しいことだと思った。この活動が少しでもバングラデシュの子どもたちの役に立つならばとてもうれしい。



OneDrop(ワンドロップ)とは

2010年、バングラデシュの教育支援活動を目的として、元中学講師の大西登志子さんを中心に結成されました。大西さんが同国を初めて訪れた際、学校に行けず路上生活をする子どもたちの状況に驚き、何とかしたいとの思いから楽しく学べる学校の建設をめざされました。「貧困の連鎖を断ち切るのは教育」との思いから、兵庫県に加古川市や小野市、加東市、神戸市などの有志が立ち上がり、バザーで収益金を集められました。2016年1月同国東部の都市コミラに私設の小学校が開校されるなど、精力的に活動されています。

2017年11月7日(火) 神戸新聞掲載

西脇市住吉町、双葉小学校(全校児童31人)の児童らが、バングラデシュ教育支援の会「ワンドロップ」の活動に賛同し、現地で学ぶ子どもたちを応援しようと、鉛筆やノートなどの文具の寄贈を校内や地域で呼び掛けている。2カ

西脇・双葉小児童ら
月ほどで集まった約2千点をこのほど、同会代表の大西登志子さん(66)＝加古川市＝らに手渡した。(長瀬麻子)

集まった2000点寄贈

バングラデシュの学校に文具を教育支援の会に協力

同会は「教育が貧困の連鎖を断ち切る」として、16年から同国で学校(全校児童40人)を運営している。今年3月と9月、同会が西脇市内で開いたイベントで、同小児童らと一緒にバングラデシュの子どもたちのために文具を集めた。同小児童ら(手前左)とワンドロップ代表の大西登志子さん(後列右)＝双葉小

同会は「教育が貧困の連鎖を断ち切る」として、16年から同国で学校(全校児童40人)を運営している。今年3月と9月、同会が西脇市内で開いたイベントで、同小児童らと一緒にバングラデシュの子どもたちのために文具を集めた。同小児童ら(手前左)とワンドロップ代表の大西登志子さん(後列右)＝双葉小

同会は「教育が貧困の連鎖を断ち切る」として、16年から同国で学校(全校児童40人)を運営している。今年3月と9月、同会が西脇市内で開いたイベントで、同小児童らと一緒にバングラデシュの子どもたちのために文具を集めた。同小児童ら(手前左)とワンドロップ代表の大西登志子さん(後列右)＝双葉小



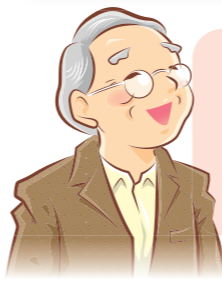
双葉小の子どもたちが送った文具を受け取るバングラデシュの子どもたち

現地に届けられた様子を聞いた子どもたち

2月9日(金)、大西さん(OneDrop)が双葉小学校の子どもたちに現地の様子や届けられた際の状況報告に来られました。文房具をもらい喜び子どもたちの様子や新たに建設中の学校のニュースについて話されました。子どもたちは、自分たちでは直接文房具を届けることはできないけれど、届けてくださったOneDropの方に感謝し、寄付活動の成果があったことをたいへん喜んでいました。



そして、新たに集まった文房具をOneDropに寄付しました。これからも可能な限り寄付活動を続けていきたいと力強く話す姿に、大西さんは、「本当に頼もしく感じます。」と話されました。



今回の寄付活動を通して子どもたちは自信と勇気、そして優しさについて考えを深めることができたのではないのでしょうか。今後もOneDropさんと双葉小学校の子どもたちとの素晴らしい関係が続いていくことを願っています。自分たちの手で何かできることはないかと考え、行動に移す双葉小学校の子どもたちは素晴らしいですね。

双葉小学校の子どもたちの気づきや学びが
あたたかい交流へとつながったのですね。

